

「朝の半月」「真夜中に南中する満月」「夕方に南西の空に見える三日月」といった写真はたくさんあります。月の見かけの形状（月相）と時刻、方位には決まった関係性があるからです。しかし「夏の月」「冬の月」となると、あまり見かけないし、私もあまり撮ったことがありません。

月に限らず、季節感のある天体写真を撮るためには、何らかの地上物を構図に写し込む必要があります。恒星の場合、地上の風景は真っ暗なので、季節感のある写真にするのはなかなか大変です。幸い月の場合、昼や夕方にも見えるので、季節感のある地上物を一緒に写すことは比較的容易です。

日曜日の午後に、小石川植物園で「チェアリング」をしてきました。その帰り道に「月齢6の月」が南西の空に見えました。植物園の木々はだいぶ紅葉が進んでいるので、月と一緒に撮ってみようと思いました。月と木々の両方にピントを合わせるには、できるだけ「遠い木」と月と一緒に撮るのがコツです。それでもどちらにもピントを合わせるのは難しいので、月を優先して撮りました。 (2023年11月中旬／文京区小石川植物園)

